

Xcode4 で学ぶ Objective-C プログラミング入門

Xcode 5 対応

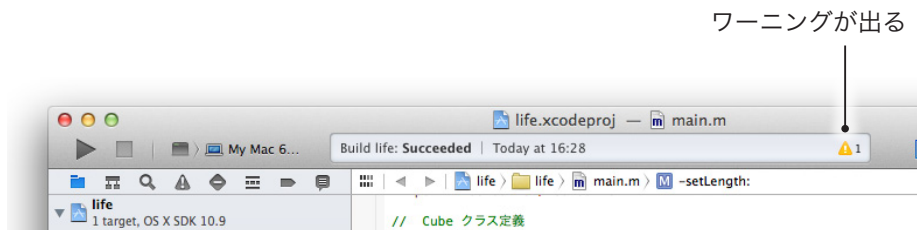
2014.4.3

ダウンロードしたサンプルプロジェクトについて

ダウンロードしたサンプルプロジェクト自体は、Xcode 5 でもそのまま Run できるようになっています。

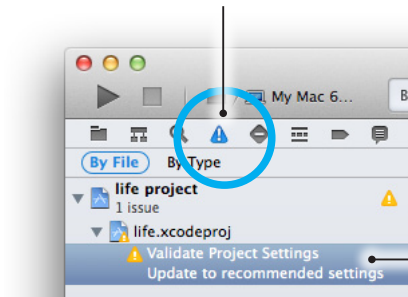
ワークスペースウィンドウに表示されるワーニングが気になる人は、次のようにしてプロジェクトを更新してください。

注) Run するために必要な作業ではありません。また、239 ページで説明している `usleep(20000);` に対するワーニングはこの作業では取りはぶけません。これは Xcode 4 の時から出しているワーニングです。実験用の追加処理なのでそのままワーニングを出したままにしています。ちなみにこちらのワーニングを取りはぶくには「`#include <unistd.h>`」という行を「`#include <stdio.h>`」の後ろに追加します。



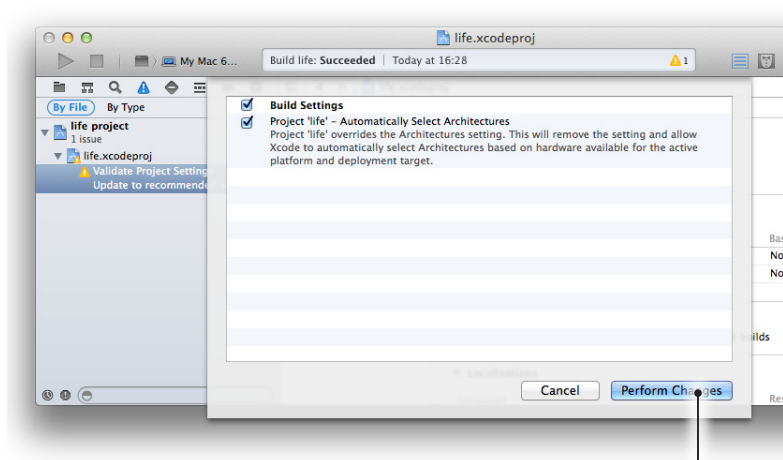
①最初に Show the Issue Navigator を選んで、表示されたワーニング項目をクリックします。

1 Show the Issue Navigator を選ぶ



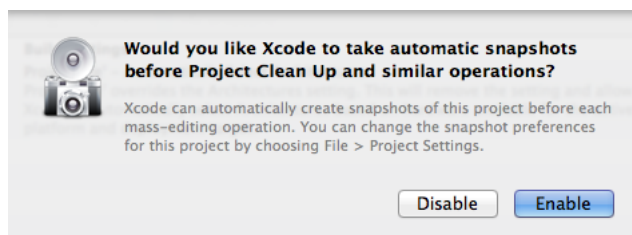
2 ワーニング項目をクリックする

②ワーニングを解決するための推奨作業内容を確認する画面が表示されるので、Perform Changes ボタンをクリックしてプロジェクトを更新します。



クリックしてプロジェクトを更新させる

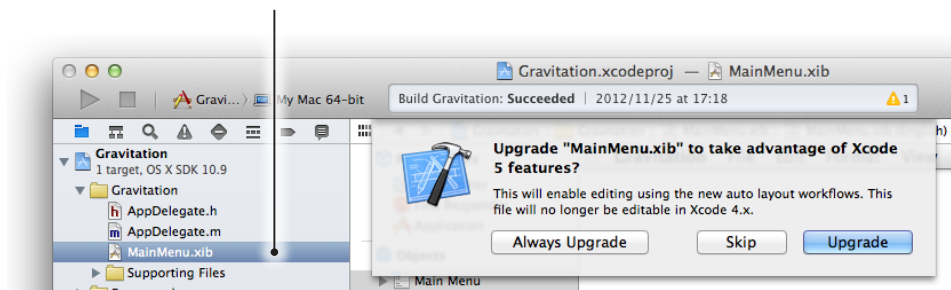
③元の状態に戻せるようにしておくかと尋ねられるので Enable ボタンをクリックします。
今回のような更新なら Disable ボタンを選んでもかまわないでしょう。



Enable ボタンをクリックした場合は、必要なら File → Rstore Snapshot...メニューで元の状態に戻す事ができるようになります。

また、XIB ファイルを選ぶと Xcode 5 の最新機能を使えるようにファイルを更新するか尋ねられるので、Upgrade ボタンをクリックしてください。

XIB ファイルを選ぶと、Xcode 5 の最新機能を使えるように
ファイルを更新するか尋ねられる

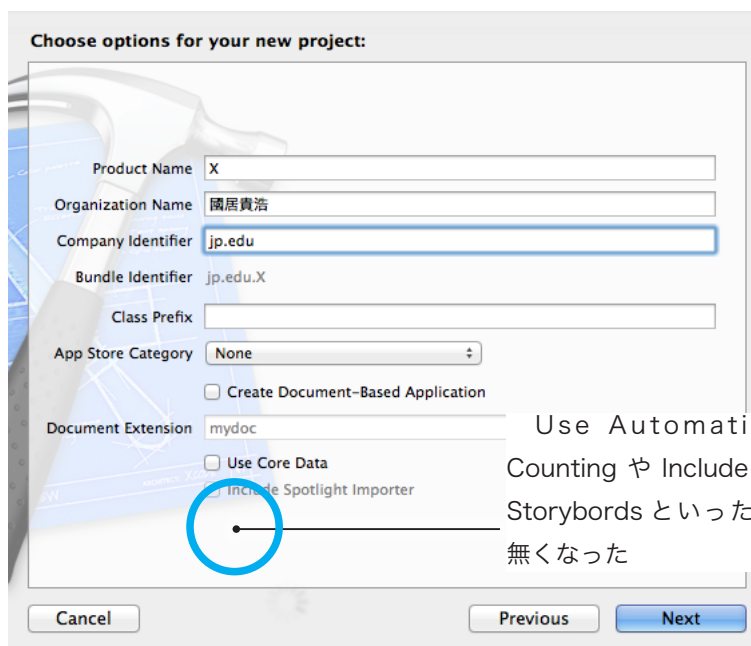


Run するだけなら Skip ボタンをクリックして更新しない事を選んでもかまいません。

プロジェクト作成時のプロジェクト情報の設定画面について

Xcode 5 ではプロジェクト情報の設定画面にある Use Automatic Reference Counting や Include Unit Test、Use Storyboards といったチェック項目は無くなりました。

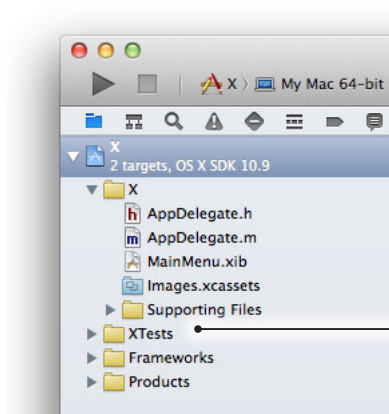
これらの項目は常にチェックされた扱いになります。



例) Xcode5 でのプロジェクト情報の設定画面 (31 ページ)

そして Include Unit Test がチェックされた扱いになるので、作成されたプロジェクトには「プロジェクト名」+ 「Test」という Unit Test 用のグループが追加されます。

わざわざ削除する必要はありませんが、本書で利用する事はありません。



Unit Test 用のグループが追加される

110 ページ

111 ページ

113 ページ

Xcode 5 で追加された Debug メニューについて

Xcode 5 ではメニューバーに Debug メニューが追加されました。

このため 110 ページ、113 ページで説明されている「CPU の動作をマシンコードレベルで観察する」際に使うメニューは、[Product] → [Debug] → [Show Disassembly When Debugging] で は な く [Debug] → [Debug Workflow] → [Show Disassembly When Debugging] になります。

また 111 ページで説明されている「エディタエリアをメモリ表示に切り替える」際に使うメニューは、[Product] → [View Memory] で は な く [Debug] → [Debug Workflow] → [View Memory] になります。

200 ページ

Xcode 5 でプリプロセス後の C ソースを見る方法について

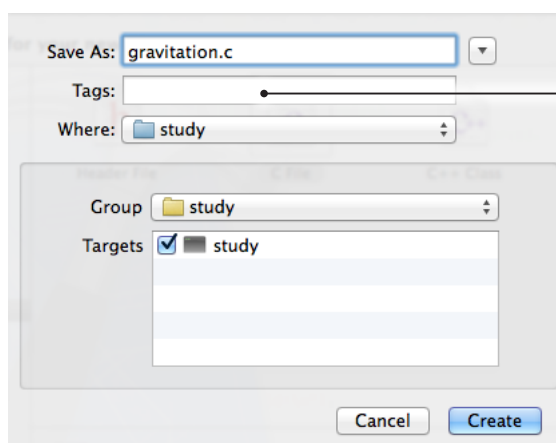
Xcode 5 でプリプロセス後の main.c ソースを見るには、メニューバーから [Product] → [Generate] → [Preprocessed File] で は な く [Product] → [Perform Action] → [Preprocess "main.c"] とします。

208 ページ

215 ページ

OS X 10.9 以降で表示される Tags: 項目について

OS X 10.9 以降では Save As: の下に Tags: という入力項目が追加されますが、そこには何も指定しなくてかまいません。



Tags: には何も指定しなくてよい

例) OS X 10.9 以降での画面 (208 ページ)

313 ページ
341 ページ
357 ページ
362 ページ

Use Automatic Reference Counting のチェックについて

313 ページ最後の説明に「また、プロジェクト作成時に、プロジェクト情報設定画面で Use Automatic Reference Counting に**チェックを入れている場合** (以後、ARC が On と表示する)、解放処理はコンパイラが代行してくれるようになります。」とありますが、Xcode 5 では常にチェックを入れている状態となります。

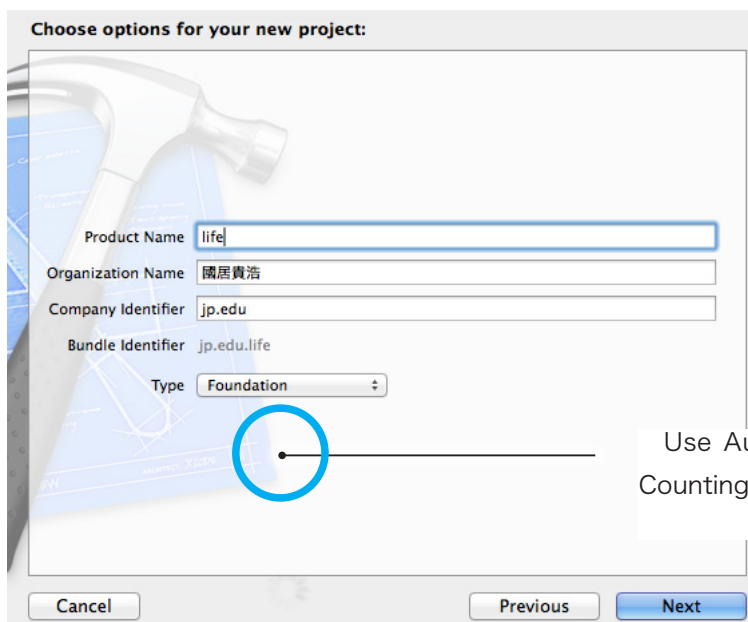
同じく 341 ページの後半にある「それは、これまでプロジェクト情報の設定画面で**無条件に設定してきた** Use Automatic Reference Counting…」も、Xcode 5 では常に Use Automatic Reference Counting はチェックを入れている状態となります。

357 ページの最後にある「通常はプロジェクトテンプレートを選ぶ段階で Use Automatic Reference Counting に **チェックを入れてください。**」や 362 ページの「最初から Use Automatic Reference Counting の**チェックを付けて**プロジェクト life を作り直してください。」も、Xcode 5 では何もしなくても Use Automatic Reference Counting はチェックを入れている状態となります。

343 ページ
344 ページ

Xcode 5 で習作コマンドラインツール life プロジェクトを作る場合に、Automatic Reference Counting を使わないようにする方法について

Xcode 5 からはプロジェクトを作る際に、Use Automatic Reference Counting 項目が表示されなくなりました。いつでも Use Automatic Reference Counting 項目がチェックされている状態として扱われます。

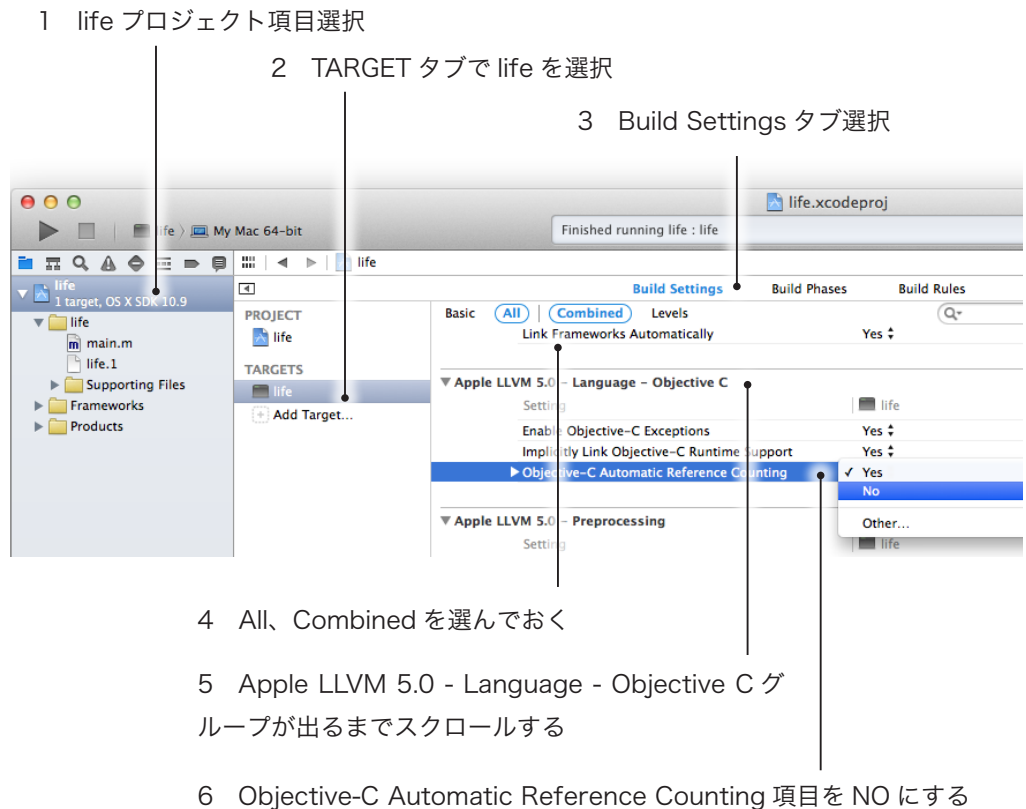


そのため本に従って自分でプロジェクトを作っていこうと思われる方は、次のようにプロジェクトのコンパイラに対する設定を直接変更してください。

まず、344 ページに従ってプロジェクトを作成するところまでは同じです。

この時、Xcode 5 では Use Automatic Reference Counting のチェックボックスは表示されません。気にせずそのまま作成してください。

そして開いたワークスペースウィンドウでナビゲーションエリアから life プロジェクト項目を選んで、右のエディタエリアに表示される TARGET タブで life を選び、Build Settings タブの Apple LLVM 5.0 - Language - Objective C グループの Objective-C Automatic Reference Counting 項目を NO にします。



これで本にしたがった記述ができるようになります。

以上で Xcode 5 対応の説明を終わります。

お疲れさまでした。